

持続可能な
インパクトを
生み出そう

広島東南ロータリークラブ

会長方針『I serveで歩む楽しいクラブ』

2026年8月10日(第3005回例会)

例会日 月曜日 ANAクラウンプラザホテル広島 Tel.241-1111

事務所 リーガロイヤルホテル広島13階 Tel.221-4894

会長 岡本幸士 幹事 渡邊直樹

8月は「会員増強・新クラブ結成推進月間」です

8月ロータリーレート162円



本日の例会

—熊本地震で犠牲となられた方々へ黙祷—

- 1230 点 鐘
国歌斉唱・ロータリーソング「奉仕の理想」
来客紹介 (親睦委員会)
8月誕生月会員お祝い「バースデーソング」
会食
- 1245 会長時間 (岡本会長)
幹事報告 (渡邊幹事)
委員会報告
・出席報告 (出席担当)
・その他
同好会報告
SAA
- 1300 プログラム
- 1330 点 鐘

会長時間

○入会式

(株)ハイエレコン 代表取締役社長 井上雅雄会員
推薦者 國司 晃会員 三宅正光会員

幹事報告

- 8月のロータリーレート
- 例会終了後理事役員会開催
- 8/13、8/14は合同事務局休局
- 在広合同名簿配布
- 次週8月17日例会は休会(クラブ定款7条第1節)
- 地区大会の本登録のお願い

本日のプログラム

「会員増強委員会・SAA委員会卓話」

会員増強&SAA委員会

次回例会(8月24日)

「昨今のハラスメント事情」 渡邊直樹会員

お知らせ



第3例会「四つのテスト」の斉唱がスタート
ソングリーダー: 神田敏治会員



退会のご挨拶 上田康博会員(7月31日付)

例会出席報告

○2026年6月29日例会	○2026年7月13日例会
会員総数 85名	会員総数 84名
出席免除者 6名	出席 67名
(内出席3名)	欠席 17名
出席率対象会員 82名	ゲスト 0名
そのうち 出席 69名	ビジター 0名
欠席 13名	
メイクアップ 13名	
出席率 100%	

今後の予定

★広島RAC千羽鶴例会(登録された方)

と き 9月19日(土)12:30~受付

ところ 国際会議場会議運営事務室1・2

○2026-27年度地区大会(ホスト:宇部RC)

10月23日(金) 記念ゴルフ大会

10月24日(土) 大会1日目 ※会長・幹事のみ

★10月25日(日) 大会2日目 青少年・本会議

★はメイクアップ対象事業です

8月24日例会メニュー< 中華コース >

夏野菜と牛肉のコチュジャンソース炒め

五目とろみスープ 点心2種

鶏もも肉と冬瓜のオイスターソース煮込み

白飯・ザー菜 杏仁豆腐

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA SOUTHEAST

前回2026年7月27日例会

地区補助金奨学生卓話 林 茉里奈さん



皆様、こんにちは。

このたび、東南ロータリークラブ様からご推薦いただき、第2710地区の地区補助金奨学生としてご支援いただくことになりました、林茉里奈と申します。まずは、私を奨学生としてご推薦くださり、留学の機会を支えてくださる皆様に、心より御礼申し上げます。

本日は、私がこれまでどのような経験をしてきたのか、その経験からどのような問題意識を持つようになったのか、そして、コロンビア・ビジネス・スクールで何を学び、その学びを将来どのように社会へ還元したいと考えているのかをお話しさせていただきます。

私の関心のテーマといたしましては、環境ファイナンスは、単に「環境に良い企業へ投資する」というものではない、ということです。

むしろ、今は環境負荷が高くても、これから変わる必要があり、変わる意思を持つ企業に対して、必要な資金と適切なインセンティブを提供する。そのことによって、企業や産業の実際の変化を促していく。私は、そのような金融の仕組みをつくりたいと考えています。

そのために、これまでの実務経験を、金融・気候変動・政策に関する体系的な知識へと発展させることが、今回の留学の目的です。

まず、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は1995年に広島市で生まれました。

カウンセラーを務めていただいている井原さんと同じく安田女子高等学校を卒業しておりまして、卒業後は東京の国際基督教大学、ICUに進学しました。ICUは少し変わったカリキュラムを持っており、2年生までは幅広い教養科目を履修でき、専攻を決定するのは3年生になってからです。私は当初理系に行こうかなと思っていたのですが、2年生で履修した経済学が最も面白いと思いまして、経済学を専攻しました。大学卒業後の2018年に、欧州系の資産運用会社であるドイチェ・アセット・マネジメントに入社しました。資産運用会社は、年金、生命保険会社、銀行などのお客様からお預かりした資金を、株式や債券、融資などを通じて運用する会社です。

私がこの仕事を通じて実感したのは、金融機関が動かしている資金の規模と、その資金が社会に与える影響の大きさでした。

どのような企業や事業に資金を提供するのかによって、その企業の将来だけでなく、産業全体の方角性にも影響を与えることができます。ドイチェ・アセットでは、特に環境ファイナンスに関する金融商品の開発に携わりました。

そして、実際に金融商品をつくる中で、金融の理論だけではなく、投資家、企業、気候変動の専門家、法務やリスク管理など、異なる立場の関係者をつなぐことの重要性を学びました。

〇略歴

- 1995年 広島市生まれ
- 2014年 安田女子中学高等学校卒業
- 2018年 国際基督教大学教養学部卒業
- 2018年 ドイチェ・アセット・マネジメント入社
- 2024年 ドイチェ・アセット・マネジメント退社
- 2025年 ベインアンドカンパニー入社
- 2026年 コロンビア・ビジネス・スクール進学



2024年にドイチェ・アセットを退社し、2025年からはベイン・アンド・カンパニーに入社しました。現在は、金融という一つの業界の中だけではなく、企業経営や事業変革をより広い視点で考える経験を積んでいます。

そして、2026年からコロンビア・ビジネス・スクールへ進学します。

この経歴だけを見ると、資産運用会社、コンサルティング会社、ビジネススクールと、少し異なる道を歩んでいるように見えるかもしれませんが。

しかし、私の中では一つの問題意識でつながっています。それは、社会に必要な変化を、理念や目標だけで終わらせず、実際の企業の行動や資金の流れに落とし込むには、何が必要なのか、という問題意識です。

それぞれの立場は違いますが、共通の目的と仕組みを設計できれば、一緒に大きな変化を生み出すことができます。そうした橋渡しの役割を担いたいという思いが、現在の私のキャリアにつながっています。

ここからは、私がこれまで取り組んできた環境ファイナンスについて、もう少し具体的にお話します。

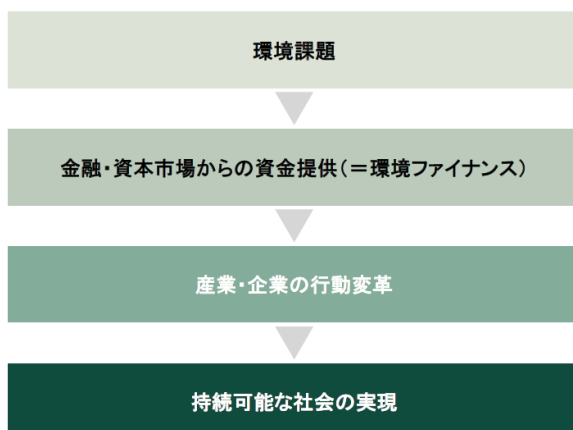
まず環境ファイナンスについて、金融業界の方以外はあまり聞いたことがないかもしれませんが、環境ファイナンスは、企業が環境に良い取り組みをするために必要な資金を提供するものです。環境問題というと、再生可能エネルギーや省エネルギー、電気自動車などを思い浮かべる方が多いと思いますが、社会全体をグリーン化するには、新しい技術を開発するだけでは十分ではありません。

工場や設備を更新する、新しいエネルギー源に切り替える、サプライチェーンを見直すといった取り組みには、非常に大きな資金が必要です。特に、鉄鋼、化学、セメント、運輸など、現在の社会に欠かせない一方で、温室効果ガスの排出量が多い産業では、事業の転換に長い時間と多額の設備投資が必要になります。ここで重要になるのが、金融の役割です。金融機関が、企業の変革に必要な資金を提供し、その資金の条件に、環境面での改善を促す仕組みを組み込むことによって、単に資金を提供するだけでなく、企業の行動変化を後押しすることができます。ドイチェ・アセットでは、大手金融機関のお客様と協働し、こうした考え方に基づく新しいファンドの開発に携わりました。

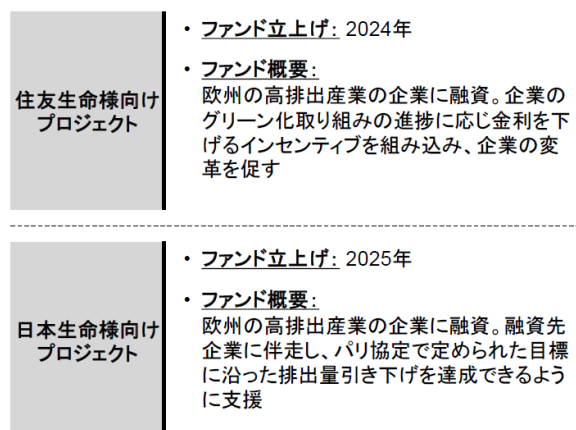
一つ目は、住友生命様向けに開発し、2024年に立ち上がったプロジェクトです。このファンドでは、欧州の高排出産業に属する企業に対して融資を行います。高排出産業と聞くと、「そのような企業には資金を提供しない方がよいのではないか」と思われるかもしれませんが、しかし、そうした企業こそ、社会全体の排出量を減らすために大きく変わる必要があります。そして、設備更新や技術開発のために、多額の資金を必要としています。

欧州系金融機関にて環境ファイナンスの商品開発に従事

環境ファイナンスはグリーン化に必要な取り組みに資金を提供



ドイチェ・アセットにて大手金融機関と協働し新規ファンドを開発



このファンドでは、ただ融資を行うのではなく、企業のグリーン化に向けた取り組みの進捗に応じて、融資の金利を引き下げる仕組みを組み込みました。つまり、企業が環境面で着実に前進すれば、資金調達の条件がよくなるというインセンティブをつくっています。企業にとって環境への取り組みが、単なるコストではなく、金融面でのメリットにもつながるように設計したものです。

二つ目は、日本生命様向けに開発に携わり、その後2025年に立ち上がったプロジェクトです。こちら、欧州の高排出産業の企業に対して融資を行うファンドですが、特徴は、資金を提供して終わりではないという点です。融資先企業と継続的に対話し、パリ協定に整合する排出削減の道筋に沿って、実際に排出量を引き下げられるよう支援します。その企業がどのような計画を持っているのか、設備投資が実行されているのか、途中の目標を達成しているのかを確認しながら、長期的に伴走していく仕組みです。こうした商品開発では、環境面で意義があることだけでは十分ではありません。

投資家のお金を運用する以上、投資として適切なリターンが期待できること、リスクが管理されていること、そして、環境への効果を客観的に説明できることが必要です。

私は商品開発を通じて、投資家のニーズ、企業の資金需要、環境面での目標を整理し、それらを金融商品として実現するための調整に携わりました。この経験から、金融商品は単なる入れ物ではなく、企業の行動を変えるための仕組みにもなり得るということを学びました。一方で、実際に商品をつくるほど、現在の環境ファイナンスの評価方法には大きな課題があることにも気づきました。

環境に良いとされる金融商品を増やすだけでは、必ずしも社会全体の排出量削減にはつながりません。どのような指標で投資家や企業を評価するかによって、資金の流れは大きく変わります。

次のスライドでは、実務を通じて感じた課題についてお話します。

〇これまでの実務を通して実感した課題と解決方法

日本における環境ファイナンスの課題	インパクトベースの評価軸への転換のために必要な取り組み
① <u>排出量ベースの政策による逆効果</u> 投資家に対し投資銘柄の排出量報告・削減を求める枠組みが、最もグリーン化に向けた資金を必要とする高排出産業から資金を流出させている ② <u>機関投資家の潜在力が活かせない</u> 年金・生命保険会社は規模が大きく長期運用可能だが、現行の評価軸ではサステナブル移行の担い手になっていない ③ <u>企業と投資家の時間軸のズレ</u> 企業の転換に必要な時間軸と投資家が求める回収期間のズレが、事業会社の意思決定を歪めている	- 政策的フレームワークの再設計 投資家に対する排出量規制をインパクト評価軸に転換する制度整備 - インパクトの測定・基準化 長期リターンと移行インパクトを両立する金融商品の開発 - リターンを維持できる商品設計 移行の進捗を定量的に測定する共通指標の確立 - ステークホルダーの合意形成 投資家・企業・政策立案者が同じ目標に向かう仕組み

このスライドには、現在の日本における環境ファイナンスの課題を、大きく三つ記載しています。少し内容が専門的になりますので、できるだけ具体的にご説明します。

一つ目は、排出量を中心とした評価方法が、場合によっては逆効果を生んでいることです。現在、投資家に対して、自分たちが投資している企業の温室効果ガス排出量を把握し、それを減らすことを求める流れがあります。排出量を把握し、削減を求めること自体は、もちろん非常に重要です。しかし、投資家が自らの投資先全体の排出量を短期間で下げようとすると、現在の排出量が多い企業への投資をやめることが、最も簡単な方法になります。

例えば、排出量の多い製造業の企業を売却し、もともと排出量の少ないサービス業の企業へ投資先

を変えると、投資家の報告書上の排出量はすぐに下がります。しかし、売却された製造業の企業そのものが変わったわけではありません。

その企業の工場から出る排出量も、社会全体の排出量も、そのまま残ります。むしろ、変革に必要な資金が得られなくなれば、設備更新が遅れ、実社会の排出削減が進まなくなる可能性もあります。私は、排出量による評価を、その企業の「現在地を写した写真」のようなものだと考えています。現在地を見ることは必要です。しかし、本当に知りたいのは、その企業がどこからどこへ、どの程度の速さで進んでいるのかということです。それは、一枚の写真というよりも、変化の過程を記録した動画に近いものです。私が研究したいインパクトベースの評価とは、現在の排出量だけを見るのではなく、資金を提供したことによって、実社会にどのような変化が生まれたのかを見る考え方です。排出量を見ることをやめるという意味ではありません。排出量という現在地に加えて、変化の方向、速度、実効性を見る必要があるということです。

二つ目の課題は、日本の機関投資家が持つ潜在力を十分に活用できていないことです。年金基金や生命保険会社は、非常に大きな資金を運用しています。また、年金や生命保険は、将来にわたる長期的な支払いを前提としているため、長期的な視点で資金を運用できる投資家でもあります。企業の脱炭素化は、短期間では実現しません。新しい設備の導入や、事業構造の転換には、何年にもわたる取り組みが必要です。そのため、本来であれば、年金や生命保険会社のような長期投資家は、企業の移行を支える重要な担い手になり得ます。しかし、現在の評価制度のもとでは、高排出企業に資金を提供すると、投資家自身の排出量指標が悪化して見えます。その結果、本来は長期的な資金を提供できる投資家が、変革を必要としている企業への投資を避けざるを得ないという状況が生まれています。

三つ目は、企業と投資家の時間軸のずれです。企業が工場や設備を転換する場合、投資効果が現れるまでには長い時間がかかります。一方で、投資家や金融機関は、より短い期間で成果を評価されることがあります。この時間軸のずれが大きいと、企業は、長期的には必要でも短期的な利益を圧迫する投資を先送りしてしまいます。また、実質的な変革よりも、短期間で指標を改善して見せることを優先する可能性もあります。これらの問題を解決するためには、右側に記載している三つの取り組みが必要だと考えています。

一つ目は、政策的なフレームワークの再設計です。投資家に対して、投資先の排出量を減らすことだけを求めるのではなく、資金提供によって、企業や産業にどのような変化を生み出したのかも評価する制度へ転換する必要があります。

二つ目は、インパクトの測定と基準化です。「この投資は社会に良い影響を与えています」と言うだけでは、客観的な評価にはなりません。資金を提供する前と後で何が変わったのか、企業の設備投資は実行されたのか、中間目標を達成しているのか、排出削減が事業全体で実現しているのかなど、共通の指標で測る必要があります。同時に、高排出企業であれば、どの企業でも支援すればよいということではありません。単に「将来は排出量を減らします」と表明するだけでなく、具体的な計画、経営陣の責任、投資額、中間目標を確認し、進捗がなければ金融条件を見直すなど、厳格な仕組みも必要です。そうでなければ、環境に配慮しているように見せるだけの、いわゆるグリーンウォッシュにつながってしまいます。

三つ目は、投資家、企業、政策立案者の合意形成です。金融商品だけをつくっても、制度が合っていないければ、資金は十分に集まりません。

一方で、政策だけをつくっても、投資として成立しなければ、民間資金は継続的に動きません。環境ファイナンスを寄付や慈善活動としてではなく、大きな規模で継続可能な仕組みにするためには、環境へのインパクトと、投資家にとってのリターンを両立させる必要があります。実務を通じて、私は、この問題は金融だけを学んでも解決できず、気候変動だけを学んでも、政策だけを学んでも解決できないと感じるようになりました。金融、気候変動、政策の三つを横断して理解する必要があります。

それが、私が今、コロンビア・ビジネス・スクールに留学する理由です。

コロンビア・ビジネス・スクールでは、金融、気候変動、政策という三つの領域を包括的に学ぶ予定です。

まず、金融の領域です。環境への意義がある金融商品でも、適切なリターンが得られず、リスクを管理できなければ、継続的に大きな資金を集めることはできません。そこで、移行投資に必要な金融理論、資本市場の仕組み、リスクとリターンの考え方、金融商品の設計について、体系的に学びたいと考えています。特に研究したいのが、環境へのインパクトをどのように測定し、それを投資判断にどのように組み込むかという点です。

投資家にとって必要なリターンを確保しながら、企業の長期的な変革を支援できる商品は、どのように設計すればよいのか。企業が目標を達成した場合、あるいは達成しなかった場合に、金利や投資条件をどのように変えるべきなのか。実務で感じた疑問を、金融理論とデータに基づいて検討したいと思っています。

次に、気候変動の領域です。金融商品进行設計するためには、企業が実際にどのような技術や事業変革によって排出量を削減できるのかを理解する必要があります。産業によって、脱炭素化の方法も、必要な時間も、技術的な難しさも異なります。そのため、事業会社の最先端の取り組みを学び、企業が実行可能な移行計画とはどのようなものかを理解したいと考えています。また、欧米の気候変動に関する規制や政策の枠組みについても学びます。海外の制度をそのまま日本に持ち込むのではなく、どの部分が機能し、どの部分に課題があるのかを比較しながら、日本の市場や産業構造に適した仕組みを考えたいと思っています。

三つ目は、政策です。企業や投資家は、それぞれの経済合理性に基づいて行動します。したがって、望ましい行動をお願いするだけでなく、その行動を選択しやすくするインセンティブを制度として設計する必要があります。企業が長期的な設備投資を行いやすくするためには、どのような政策が必要なのか。投資家が高排出産業の移行を支援した場合、それを適切に評価するにはどのような制度が必要なのか。民間資金を社会的な目標へ動かす政策設計について、学びたいと考えています。コロンビアを選んだ理由は、金融教育に強みを持つビジネススクールでありながら、気候変動や政策についても横断的に学べる環境があるからです。

また、ニューヨークには、金融機関、企業、研究者、政策に関わる実務家が集まっています。授業で知識を得るだけでなく、異なる国や業界の学生、研究者、実務家との議論を通じて、自分の考えを検証したいと思っています。

ファイナンススクールとして知られるコロンビア・ビジネス・スクールにて、
金融・気候変動・政策を包括的に研究予定



・金融:



- 移行投資に必要な金融理論・商品設計を体系的に習得
- インパクト測定とリターンを両立させる評価手法の研究

・気候変動:



- 事業会社の最先端の気候変動への取組の理解
- 欧米の先進的な気候変動規制フレームワークの理解

・政策:



- 政策を通じたインセンティブの設計手法の習得
- 望まれるインパクトを実現するためにあるべき環境ファイナンスの政策的フレームワークの研究

皆様からいただく奨学金は、留学に必要な費用を支えていただくというだけではありません。経済的な負担を軽減していただくことで、授業、研究、実務家との交流に集中し、自分の専門性を深めるための基盤になります。私は、このご支援を、単に学位を取得するためではなく、実務に持ち帰ることのできる知識とネットワークを得るために活用したいと考えています。

最後に、留学中、卒業後、そして中長期という三つの時間軸で、私が実現したいことをお話しします。

まず、留学中です。コロンビアでは、Finance、Climate、Policyの科目を横断して履修し、環境ファイナンスを体系的に学びます。その中で、特にインパクトベースの評価について研究したいと考えています。具体的には、三つの問いに取り組みたいと思っています。一つ目は、企業の現在の排出量だけでなく、資金提供によって生み出された変化を、どのような指標で測るべきか。二つ目は、そのインパクトと、投資家が必要とするリターンを、どのように両立させるか。三つ目は、年金や生命保険会社などの長期投資家が、企業の移行に資金を提供しやすくなるために、どのような政策や制度が必要かという問いです。

また、世界中から集まる学生や実務家、研究者と議論し、長期的に協力できるネットワークを築きたいと思います。環境問題も、金融市場も、一つの国だけで完結するものではありません。海外で成功した事例や失敗した事例を学び、日本の課題を海外の視点から捉え直すことが重要だと考えています。

次に、卒業後です。卒業後は、まず金融の現場で実務経験をさらに積みみたいと考えています。留学中に学んだ評価手法や金融理論を使って、環境へのインパクトと投資リターンを両立する金融商品の設計に携わりたいと思います。新しい制度を提案する際には、理論だけではなく、「この仕組みであれば実際に資金が集まり、企業の変化が起きた」という事例が必要です。そのため、まずは具体的な金融商品や投資案件を通じて、インパクトベースの評価が実務上も機能することを示したいと考えています。

そして中長期的には、そうした実務経験と事例をもとに、日本の環境ファイナンスの政策的な枠組みを、排出量だけを見るものから、実社会へのインパクトも評価するものへ転換することに貢献したいと思っています。もちろん、私一人で制度を変えられるとは思っていません。金融機関、事業会社、政策立案者、研究者など、多くの関係者との協力が必要です。私は、その間をつなぎ、それぞれの立場を理解したうえで、共通の仕組みをつくる役割を担いたいと思っています。

最終的に目指しているのは、環境か経済か、持続可能性か成長か、という二者択一ではありません。環境への取り組みが、新しい技術、産業、雇用、そして企業価値の向上にもつながり、持続可能性と経済成長が両立する社会です。金融には、その変化を加速させる力があると考えています。金融の世界では、資金は誰かから託されるものです。今回、皆様からいただく奨学金も、私に託していただく大切な資金であり、私の将来に対する長期的な投資だと受け止めています。そのリターンを、私個人の学位やキャリアだけで終わらせるのではなく、留学で得た知識、実務でつくる事例、そして将来の社会への貢献という形でお返ししたいと考えています。

帰国後、皆様に「今回の支援が、このような成果につながりました」と具体的にご報告できるよう、コロンビアでの学びに真摯に取り組んでまいります。改めまして、このような貴重な機会を与えてくださったことに、心より感謝申し上げます。

本日はご清聴いただき、ありがとうございました。

○卒業後の目標

留学中	卒業後	中長期
環境ファイナンスを体系的に学ぶ	金融の現場で実務スキルを磨く	日本の政策フレームワークをインパクトベースへ転換
- Finance・Climate・Policy科目を横断的に履修 - 世界中の実務家・研究者との議論と人脈形成 - インパクトベース評価の研究に取り組む	- インパクトとリターンを両立する商品設計に従事 - 習得した評価手法・政策知識を日本の実務に応用 - グローバルネットワークを活用した連携推進	- 排出量ベースからインパクトベースへの制度転換を推進 - 持続可能性と経済成長が両立する社会の実装に貢献

報告: 青少年奉仕担当リーダー 林 亮介

7月25日(土)、26日(日)に開催された「国際ロータリー第2710地区 第50回インターアクト地区大会」(ホストクラブ: 広島商業高等学校インターアクトクラブ、ホストスポンサークラブ: 広島東南ロータリークラブ)を無事滞りなく終えることができました。毎年夏に行われるインターアクト地区大会は、山口県と広島県にあるインターアクトクラブを有する学校がホスト校となり、毎年交互に開催されます。



昨年は山口県の山陽小野田市にあるザビエル高等学校がホスト校でした。思えば、昨年5月の指導者研修会の際に福山北RCの藤井会員と英数学館の比羅岡先生に引継ぎをして頂いたところから大会の準備がスタートしました。約20年振りということで本当に手探り状態からの出発でした。

準備段階から注意していたのが、提唱RCである当クラブは広商IACの主体性を見守る立場で口は出し過ぎてはいけないということです。あくまで主役は広島商業高等学校インターアクトクラブです。さて、1年前に遡り、最初の会場探しの折には今回の会場となった広島サンプラザは他の予約で埋まっていました。ホテルに尽力いただき、先約の会社の好意で催しを1週間ずらしていただいたことには感謝がありません。会場を探し回った結果、IA地区大会の予算に合うホテルの候補は、市内に広島サンプラザを入れて2つしかありませんでした。本当に助かりました。

これでようやく開催日と会場の目途が立ち、郷田地区IA委員長経由で脇ガバナー(当時エレクト)の予定を確認させていただきOK返事をいただきました。昔話として、当時の青少年奉仕担当だった見正リーダーから、「広商さんOKです」と連絡を頂きましたが、まだ次年度ガバナーに確認する前の話だったため、ガバナーに日程をダメ出しされたら困ったことになるかと独り言をつぶやきました。

そんなこんなで会場は決まりましたが、今度は参加人数を想定155名で考えると宿泊施設のキャパが広島サンプラザだけでは賅いきれず、どうすれば良いかと考えていたときにアルパーク東棟の裏にサムシングホール・ドルフィンというホテルがあったのを思い出しました。広島サンプラザからも徒歩7分圏内で、これで会場と宿泊施設が決定しました。ホテルに伺いフロントで宿泊予約を32部屋(最終的に19部屋利用)押さえることができましたが、対面に対応頂いた方に予約をお願いしたものの全く確認メールも来なかったため、念のため、こちらから宿泊予約メールを送りました。それでも返信もなく、一抹の不安が過ぎりました。1年後に予約を承っておりませんと言われると本当に困った事態になります。1年後、結論としては全く問題ありませんでした。

会場、宿泊施設が決まったことでやや安堵し、IAC例会では来年の地区大会に向けて大会テーマを早めに考えていきましょう、と余裕あるコメントをしました。それが、9月だったと思います。そこから、秋が過ぎ、冬の街頭募金も終わり、年末年始を過ぎる。冬休み、春休みも終わりのよいよ新学期も始まり、時計の針は刻々と進みます。冷や汗の時期が続きましたが、大会テーマの概要がようやく4月に固まってきました。テーマは「防災」生徒主体で防災ゲームのワークショップを実施するという内容です。ここからスキップします。さあ、いよいよIA地区大会の第1日目の当日を迎えます。当クラブの動きを紹介すると7月25日(土)10時に運営スタッフが広島サンプラザに集合しました。電車であられる参加者の誘導係は生徒とペアとなり3ヶ所で待機、ホテル玄関のお出迎え係もスタンバイしました。

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA SOUTHEAST

委員会報告

7/25(土)-7/26(日)「第2710地区 第50回インターアクト地区大会」

想定外だったのは、JRの駅からアクセスが良かったためか、山口県の学校でもバス組がいなかったことです。マイクロバスを降りてくる参加者によろそ広島へ的なお出迎えを考えていましたが、想定通りにはならないものです。ある生徒に交通手段を尋ねると「鈍行！」と元気に答えてくれました。しばらく耳にしていない昭和な響きでした。11時10分過ぎから参加が徐々に3F受付に集まり出しましたが、広島の学校の生徒があまりにも皆バラバラに来るため、学校単位でまとまって受付すると想定していた広島IACは、資料の受け渡しや受付のレ点チェックに小さな混乱が生じていました。何事も経験で想定通りにはいきません。受付後に昼食、1Fロビーで集合写真、そして開会式が始まりました。

点鐘を 大会委員長(広島IAC部長)の柿村未優さん、開会宣言を大会副委員長(広島IAC副部長)の高野蒼乃さんが行いました。立派な開会宣言でした。

脇ガバナーのご挨拶では、昔インターアクターとして奉仕活動をされていた話、ガバナーご自身が防災士の資格を取られていて防災活動に現在でも積極的に参加されているお話をされました。また、ワークショップの最中にガバナーへ直接質問させていただく機会がありましたが、今回のワークショップで行った防災ゲームの体験もあるとのことでした。起きて欲しくはありませんが、今回の地区大会の後に熊本地震がありました。日本ではいつどこで災害が発生しても



おかしくないため、これから紹介する防災ゲームを通して、非常時における状況判断を日頃から磨いておくことが重要だと感じた次第です。続いて提唱RC会長挨拶として岡本会長の挨拶が続きます。岡本会長の挨拶の中で、広島IACの準備段階からの頑張りを称える話と運営支援をいただいた高校2年生で広島防災学団の代表を務められている松原健太郎さんと防災学団の紹介がありました。広島防災学団は、学生を中心に、防災教育や地域との連携を通じて、若い世代の防災意識の向上と地域防災力の向上に取り組まれている団体です。本日の学びを通じて、防災を「自分ごと」として考え、一人ひとりが地域の防災リーダーとなるための第一歩を踏み出して欲しいと挨拶されました。

ところで、最近のIA地区大会では、開会式後の初日午後の時間は、バス移動を含めたフィールドワーク(観光・視察)主体のカリキュラムが多く見受けられました。大会テーマも「街の活性化・街おこし」に関する内容が多かったのですが、今年は「その命だれが守る? ～知識と行動が地域を救う～」を大会テーマに防災に関するワークショップ主体のカリキュラムを広島IACで企画しました。



1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



ワークショップでは、RC会員も参加したかったという声も一部から聞こえてきましたが、生徒のみでグループは学校毎ではなくランダムな12グループに分かれて行われました。13時50分〜クロスロードゲームを行いました。災害時の究極の二者択一の選択を参加者がYESかNOのカードを出して答えるゲームです。まず、答えを考えるにあたり、避難所の食料担当の職員や避難者といった立場が指定されます。一例を紹介します。あなたは避難者です。外出時に地震が起こり、津波が来ると

警報された。家には、年配のおばあちゃんがいる。家に戻る？YES(戻る)又はNO(戻らない)意見を考えてください。(3分後)グループで意見交換してください。という流れでゲームは進みます。重要なのはどちらが正解かを求めることではなく、災害における色々なシチュエーションを頭で想定しながら、万が一災害に遭遇した際の状況判断を参加者が磨くことです。

14時45分〜DIGを行いました。DIGとは「Disaster(災害)Imagination(想像)Game(ゲーム)」の略で、日本語では「災害図上訓練」などと呼ばれています。配布された用紙のQRコードを読み込むと、ある地域の地図が現れます。今回は、自宅から避難場所へ避難するという設定で避難ルートや危険箇所をグループで討議しました。川沿いの道路が危険な場合、どの避難経路を選ぶか。その理由や、なぜそのルートが安全だと思ったかなどについて参加者同士で意見を出し合っていました。災害の種類によって変化する危険箇所や被害状況を想定しながら、自宅などから避難場所までの安全な避難経路や、地域の防災上の課題を参加者同士で考えるゲームで、グループによって進行が早い遅いはありましたが、和気あいあいと自分の意見を述べている姿が印象的でした。途中、この日一番のどよめきが起きました。ワークショップの進行補助をしていた松原健太郎さんが自己紹介で皆さんと同じ高校2年生ですと紹介したときです。「え、本当に高校生？」という声があちこちから聞こえてきます。大人がサポートしていると思っていたら、実は同年代だったというオチです。高校では生徒会長を務めているようですが、それを差し引いても見た目と話ぶりは大学生、いやむしろ社会人です。裏話ですが、朝の時点では松原さんは長ズボンにポロシャツという恰好で来ていました。席が来賓席になっているためまずいと思ったか、家政婦は見た(昔過ぎますね)ではないですが、お母さんに学校の制服を届けてもらっているのを目撃してしまいました。

16時20分にワークショップも終わり、生徒・先生(RC会員の一部も)はシン・マリホ水族館へ、他のRC会員はホテルへ向かいました。シン・マリホ水族館ではチケットの事前購入が不可だったため、15万ほど望月先生と今田先生に預けましたが、お金が足りないという小さな不足(不測)の事態が発生しました。私の計算間違いです。夜の懇親会は、生徒が「生徒交歓会」、RC会員と顧問教師が「ロータリークラブ・顧問教師交流会」とそれぞれ別会場に分かれて同時刻でスタートしました。



THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA SOUTHEAST

委員会報告

7/25(土)~7/26(日)「第2710地区 第50回インターアクト地区大会」

「ロータリークラブ・顧問教師交流会」が始まり、当クラブの岡本会長の挨拶、郷田地区IA委員長の乾杯の後、各テーブルでは賑やかに歓談されていました。配席は年度で色が出ますが、顧問教師同士、RC会員同士では面白くないため、山口と広島、RC会員と顧問教師を軸に意図的にミックスさせました。中締めは広島南RCで地区IA委員の佐古さんにいただきました。佐古さんには、昨年のIA地区大会の折に会場と宿泊先は一緒の方が荷物の移動がスムーズ等、色々とアドバイスをいただきました。さあ、大詰めの2日目の朝を迎えます。2日目の運営スタッフと8時15分に集合してお出迎え、3F受付では広商IACの生徒が参加者へお水を配布しました。参加者の集まりが早く、9時20分開始のところ、9時5分から2日目のワークショップ、HUGを開始しました。HUGとは、避難所運営の疑似体験ゲームです。途中、松原さんから、「自分がなかったら困るもの、例えばスマホの充電場所がなかったら困るでしょう」と考え方のヒントを生徒に出しながら、グループ討議を促していました。ペットを連れて避難者や外国人の避難者等、色々な意見が飛び交っていました。夜遅くまで楽しくおしゃべりをしていた部屋もあったようで、全体的に疲れの色が見えた2日目でしたが、楽しく避難所運営のゲームを行っていたのが印象に残りました。例年ではこの時間帯は、講演が多いのですが、平垣内先生曰く広商生は寝ちゃうのでということでワークショップ形式にしたかったようです。途中では先行きがどうなることかと不安に感じた時期もありましたが、平垣内先生や道上先生のフォローの下、当日のワークショップを広商IAC主体で運営するまでの最後の準備の追い上げは本当に素晴らしく驚かされました。また、1日目の開会式も前倒し、2日目のワークショップも前倒し対応してもらった広商IACの皆さんには、臨機応変の対応さをこちらも学ばせていただきました。

閉会式では、広商IACの生徒や顧問教師の頑張りを郷田地区IA委員長に講評にて褒めていただき嬉しかったです。

最後になりますが、この度の第50回のIA地区大会の昨年度の準備期間から助けていただいた守下直前幹事、昨年の第49回IA地区大会の設営視察から始まり実施に至るまで助けていただいた渡邊幹事、また、奉仕プロジェクト委員会全体のサポートを調整いただいた大井委員長、広商IAC例会参加も含め、今年の準備期間から協力してもらった宮原サブリーダー、青少年奉仕担当委員の要田会員、赤川会員、田中会員、中村勝会員、他、奉仕プロジェクト委員会の皆様には、暑い中、運営支援にご協力いただき本当にありがとうございました。

そして最後の最後ですが、岡本会長に於かれましては、親睦の夜間家族例会とIA地区大会の事業が被る中、両日に渡りご協力いただきまして本当に感謝を申し上げます。



1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA SOUTHEAST

委員会報告

7/25(土)「広島みなと夢花火」鑑賞家族会を開催

報告:親睦担当リーダー 見正伸也

7月25日(土)、グランドプリンスホテル広島「シーショア」にて、今年度初となる家族会が盛大に開催されました。

39名の会員に加え、ご家族や小さなお子様など総勢126名が参加し、会場は温かな笑顔と賑わいに包まれました。

今年は、ビュッフェスタイルからご着席のまま味わえるスペシャルコースへ刷新し、お子様向け縁日や豪華グルメが当たるデジタルルーレット抽選会も実施。

岡本新会長や渡邊幹事もインターアクト地区大会会場から駆けつけ、特製のお土産も配られるなど、ご家族皆様に心ゆくまでお楽しみいただきました。

来年から花火大会の開催が9月第4土曜日に移行するため、真夏の夜空に打ち上がる花火を皆で満喫するのは今回が最後となります。

ご参加いただいた皆様、そして温かいご理解とご協力を賜りましたご家族の皆様に、心より感謝申し上げます。



クラブ公式SNSのご案内

クラブの活動の様子を随時発信してまいります。
ぜひ、Facebook、Instagramをフォローしてご覧ください。
また、このたびの花火大会家族会と、インターアクト地区大会の様子につきましても、右のQRコードからご覧いただけます。アクセスして楽しみください。



THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA SOUTHEAST

7月27日例会75,000円 累計230,000円 ニコニコ箱・ペコペコ箱

○上田康博:本日の例会を最後に退会いたします。2013年から13年間にわたってロータリー活動を通じて多くのことを学ばせていただき、また多くの思い出を作ることができました。皆様の厚意と友情に、厚く感謝申し上げます。今後は後任の井上がお世話になります。どうぞよろしくお願い致します。私はまだ暫く、社外団体の役員の任期があり会社に残っていますので、何か機会がありましたら是非お声がけ下さい。広島東南ロータリークラブの益々のご発展と皆様のご多幸をお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。(10口)



○高西哲郎:新しくゴルフ同好会のキャプテンになりました。よろしくお願いします。(10口)

○旦壮之助:先日のゴルフ同好会で優勝させていただきました。土曜だったので家族に「昼はロータリークラブのゴルフでね、夜は美味しいしゃぶしゃぶのお店に行くんよ、横川のPANというお店でね」、と説明したら「そこは一度行ってみたかったお店なんよ～、連れてって～」と言われ、高橋さんに相談したところ「中村さんのOKでたよ」と言われて、よく考えると少し図々しいなと思いましたが家内と長女を連れたいかせていただきました。すると同好会の皆様は暖かく家族を迎えていただき、まさかの優勝となった時は頭が真っ白になってしまい言葉が出ず、長女が私の代わりに挨拶をした次第です。東南ロータリークラブの和気あいあいと言われるところ、皆様のやさしさを感じさせていただきました。今度はちゃんと話せるように頑張ります。(10口)→とばかり○中村伸弘(1口)

○田上克彦:久保会長年度の取り切り戦 GET ! (10口)



ゴルフ同好会
新キャプテン 高西哲郎会員



ゴルフ同好会
7月優勝 旦 壮之助会員



ゴルフ同好会
取り切り線戦優勝 田上克彦会員

○武士末修:麻雀同好会に参加して20年近くになりますが、このたび初めて取りきり戦で優勝することができました。大変うれしく思っております。最近は仕事の関係で例会に出席できておりませんが、落ち着きましたらまた皆様とご一緒できればと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。(10口)

○富部秀司:日本の国技大相撲名古屋場所は昨日千秋楽を迎え大関霧島、関脇熱海富士、同じく関脇安青錦の3人が12勝3敗で並び3人による優勝決定戦になりました。この巴戦を制して優勝したのは先場所休場し関脇に陥落したウクライナ出身若干22歳の安青錦でした。左足の怪我を押して出場し優勝と同時にひと場所で大関カムバック、返り咲きの快挙達成はお見事！大アツパレです！(10口)

○佐野庸子:家族会(花火大会)で、ルーレットにあたりすてきな商品をいただきました。ありがとうございました。花火もとても良く楽しかったです。(2口)

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA SOUTHEAST

7月27日例会75,000円 累計230,000円 ニコニコ箱・ペコペコ箱

- 天野國幹:花火大会ご苦労様でした。孫は最後まで射的大会と言っていました。(2口)
- 久保河内豊:花火大会に参加させていただきありがとうございました。(1口)
- 守下康弘:先週土曜日はプリンスホテルでの花火鑑賞、家族で参加させていただきました。親睦の皆様ありがとうございました。(1口)
- 見正伸也:先日は『「広島みなと夢花火」鑑賞家族会』にご参加いただき、本当にありがとうございました。会員の皆様とご家族の皆様の最高の笑顔に包まれ、総勢126名で無事に素晴らしい会を終えることができましたこと、親睦委員一同、心より感謝申し上げます。来年からは花火大会の開催時期が9月第4土曜日に移行するため、真夏に打ち上がる花火と一緒に楽しむのは今回が最後となりましたが、早速来年の会場を仮予約で押さえておきましたので、どうぞよろしくお願いいたします。(3口)
- 脇舩賢治:7月例会第4位。岩井直前キャプテン4回目のホールインワンを祈念して距離測定器をGET。(1口)
- 森原弘昌:先日、7/18(土)のゴルフ同好会総会ではゴルフが終わった後、横になっていたらガチ寝坊してしまい皆さんにご迷惑をおかけしてしまい申し訳ございませんでした。今後はこのような事がないように眠くなったら目のまぶた部分に上方向にセロテープを貼って寝坊しないようにいたします!!(ペコペコ3口)
- 渡邊直樹:予算の記載に誤記がありました。失礼いたしました。(ペコペコ1口)

今月の会員記念日(2026年8月)

会員誕生日				創業月	
中村伸弘	5日	大段茂樹	14日	宮原大	ソニー生命保険(株)
尾立道泰	6日	佐々木光	19日	中畝將博	中畝將博税理士事務所
谷井智	6日	山下泉	20日	中村勝	積水ハウス(株)シャーマゾン支店
吉田信秀	7日	河野洋平	27日	佐々木聡	(株)サンゼオン
宮原大	11日	鈴川浩史	28日	吉田範子	(株)ヒラオカユニ

パートナー誕生日			入会月		結婚記念日	
大井克元	大井明子	1日	吉田信秀	S60年	園田邦貴	3日
守下康弘	守下陽子	5日	荻田玲子	H13年	岡本幸士	11日
吉田範子	吉田巖	14日	久保和浩	H15年		
菅富誉樹	菅由香	17日	高橋心里	H20年		
渡邊直樹	渡邊素子	21日	田尾直也	R5年		
大西修	大西緑	29日	稲益強	R7年		
見正伸也	見正美保	31日				



他クラブ例会変更・休会情報(受付12:00~12:30)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 8/12(水) 広島東RC(グランヴィア) | 8/17(月) 広島廿日市RC(サンブラザ) |
| 8/12(水) 広島陵北RC(リーガ) | 8/19(水) 広島東RC(グランヴィア) |
| 8/13(木) 広島西RC(ANAクラウン) | 8/21(金) 広島城南RC(シェラトン) |
| 8/13(木) 広島安佐RC(リーガ) | 8/24(月) 広島廿日市RC(サンブラザ) |
| 8/14(金) 広島城南RC(シェラトン) | 8/31(月) 広島廿日市RC(サンブラザ) |

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか